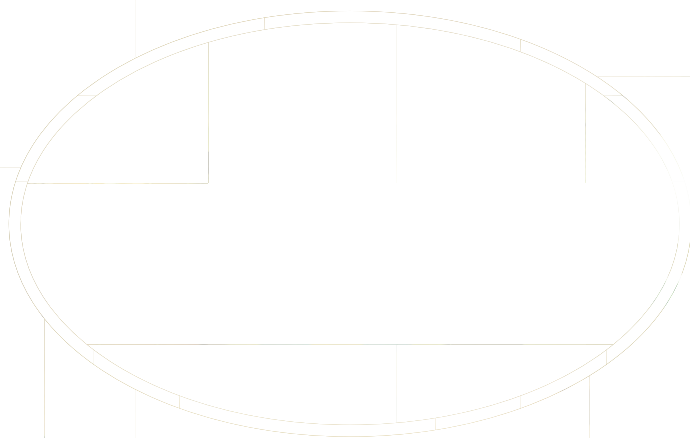


龍谷大学 大学教育開発センター通信

Ryukoku University
Center of Educational
Development Report

2013
01



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

大学教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日：2013年12月 編集・発行：龍谷大学 大学教育開発センター



学生FDサミットにて

2013, Number 01

CONTENTS

- p3 2013 年度シラバスに関する研修会
- p4 新任教員フォローアップ研修開催報告
- p6 私立大学連盟主催 FD 推進ワークショップ開催報告
- p8 立命館大学学生FDスタッフ・立命館大学教育開発推進機構主催
学生FDサミット ～大学を変える、学生が変わる～（参加報告）
- p9 授業で活用できる教育支援ツール紹介
- p10 龍谷 GP 賞受賞式の開催、FD フォーラム開催のお知らせ
- p11 2013 年度FD 活動紹介
- p12 新着図書紹介

2013年度シラバスに関する研修会 「誰のため、何のためのシラバスか ～シラバスの書き方、使い方」開催報告

2013年7月25日(木)に「誰のため、何のためのシラバスか～シラバスの書き方、使い方」というテーマで、名古屋大学高等教育センターの中井俊樹先生に話題提供とワークショップを行って頂きました。

本研修会は2012年11月5日に開催した研修会と同一内容のものではありませんでしたが、去年参加できなかった教職員にも参加の機会を設けるため、そして、2013年度よりシラバスが従来の冊子からWebシラバスへと完全に移行したことを受け、授業期間中も学生と教員が活用するシラバスへと発展していくことへの期待をこめて再度開催しました。

12月20日にはWebシラバスに重点を置いた、シラバスに関する研修会を開催する予定です。

ワークショップの中で、中井先生はシラバス作成において以下の6つのポイントを示して下さいました。

授業設計の6つの指針

①適切な学習目標を設定する。

カリキュラム目標、学問分野、受講生、教室設備等の様々な視点を意識し、学習目標を設定する。

②学習目標を明確に記述する。

学習者を主語に書くことで、到達目標がよりイメージしやすくなる。

③学修成果からの逆算的思考をする。

到達目標を明確にすることで目標に沿った授業内容を考える。

④時間外学習の学習を充実させる。

大学入学後、私生活と授業時間をどのようにやりくりしたら良いか戸惑う学生も多い。また、単位の実質化という面からも、時間外学習は重要。

⑤誰もが納得できる評価の方針を示す。

評価の方針を明確にし、評価が恣意的なものと感じさせない。また、複数回の評価を重視し、学習活動を促す。

⑥他の教員の授業設計を参考にする。

多くの大学でシラバスが公表されているので、他の教員のシラバスを参考にしてみる。



新任教員フォロー

大学教育開発センターでは、本年度龍谷大学に着任した教員を対象として、本学での教育研究活動等を円滑に進めていくため、第1学期の授業が終了した後、フォローアップ研修を実施しています。

今年度は、4月に実施した就任時研修のフォローアップとして、長谷川大学教育開発センター長、河村教学企画部課長を交えて開催し、15名の先生にお越し頂きました。前期の教育活動を振り返りながら、各先生の抱える様々な課題を把握するとともに、研究の専門分野を越えた教員間の交流を図りました。

はじめに、長谷川大学教育開発センター長より、昨今の大学教育をめぐる動向についてお話を頂きました。

大学教育をめぐる動向

- 2004 大学基準協会の認証評価が義務化
※本学は2006年度、2013年度受審。
- 2007 大学院のFD義務化
※大学院設置基準「人材の要請に関する目的その他の教育研究上の目的」を学則等に定め、そのもとに教育課程を編成すること。
- 2008 学部でのFD義務化
中央教育審議会答申（以下、中教審答申）「学士課程教育の構築に向けて」
※学士力、質保証が謳われ、AP・CP・DP策定が不可欠となる。
- 2011 教育活動等の状況についての情報公表の義務化
中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」、「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために」
- 2012 文部科学省「大学教育改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」
中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」
- 2013 教育再生実行会議「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」



アップ研修

開

催

報

告

以上、大学教育の状況をふまえた上で、実際の教育現場でどのような課題認識があるか、意見交換を行って頂きました。そこでは以下について話題があがりました。

- ・TA 制度、教室変更、AV 機器貸出等の様々な手続きがわからず苦労した。
- ・学生のレポート課題におけるコピー＆ペーストを今後どう対応するか。
- ・大教室の授業で学生をいかに飽きさせずに授業が運営していけば良いのかわからない。
- ・研究費の使用方法についてガイドはあるが、わかりにくい。
- ・会議の種類が多く、関連を理解することが難しい。また、会議が多いために、講座の準備や研究等に時間がとれない。

…等々



フォローアップ研修に参加して

- 大学教育をめぐる動向をふまえて、FD等の意義について知ることができ、興味深かった。他学部の話は刺激にもなった。
- 日頃交流できない他分野の先生方のご意見を伺うことができ、大変参考になった。担当している科目によって抱えている問題が異なるようなので、細分化した意見交換もできれば良い。
- 教育、研究活動において役立つ情報を多く知ることができた。
- 学部の違いなどもあるが、他の新任の先生方の状況もわかり、参考になった。このような機会があることは、新任者にとっては有難い。

※頂いたご意見は今後の研修会の参考にさせていただきます。
貴重なご意見ありがとうございました。



学部や研究分野は違えども、教育現場においては同じ一教員として、授業運営における課題は共通であり、意見交換の時間が短かったとお声も頂きました。大学教育開発センターでは、今後もこのような分野間交流の場を提供していきたいと思います。

私立大学連盟主催 FD推進ワークショップ

開 催 報 告

学生の学びを促す 学修支援とFD・SD ～教職協働による大学教育の 質的転換～ (6月22日開催)

教学企画部 課員 腰山 千明



本ワークショップでは、学生の主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換、及び学修支援環境の整備が重要な課題として挙げられる中、私立大学が教育の質向上に取り組み続けるためには今後どのような方策を推進していくべきなのかということを中心に据え、教員と職員が共に具体的な情報交換を行いました。情報交換は少人数のグループに別れ、所属大学の状況についてまとめたレジュメを元に行いました。

議論では、学生の学修時間を増加、確保するにあたって、正課活動と正課外活動をどのように考えていくべきかということや、学生が主体的に学修するための意識を持たせるためにはどのような働きかけが必要なのかということに対して、各大学の取り組みのメリットデメリット共有し合いながら、話し合いが進められました。

総括では各グループから討議報告がなされ、学びの動機付けのためには学生・教員・職員の協働は今後ますます重要であること、学修時間を確保しているのかを判断するために、正課学修の検証の必要性等の報告が多くなされました。各大学の規模は違えども、抱えている問題は各大学共通したもので、今後取り組んでいかなければならない問題であると再認識しました。

大学教育開発センターでは、他大学や高等教育に関する事業運営している団体との連携を推進するため、各種協議会や研修等を通じ、教育連携を推進しています。

私立大学連盟は長谷川岳史大学教育開発センター長が運営委員として携わっており、本学が連携している団体の一つです。2013年度は私立大学連盟の事業として行う、専任教職員向けFD推進ワークショップ(6月22日)、新任教員向けFD推進ワークショップ(8月9～10日開催)に、本学からは教学企画部課員と本学専任教員1名が参加しました。

大学教員の 職能開発とFD (B日程8月9日～10日開催)

社会学部 畑仲 哲雄准教授



ワークショップの眼目は、新任教員たちのスキル向上である。参加者たちは小グループに振り分けられ、15分間の模擬授業を順番におこない、授業手法を評価・検討し合うと

いうミッションが課せられた。模擬授業で使っているのはホワイトボードだけで、映像音声機器やスライドを用いることは禁じられた。

数十人規模の講義でパワーポイントを使うことに慣れていて私にとって、「板書と語り」だけで授業をおこなうのは、なんだか時代遅れに感じられた。というのも、私はスライドや映像の効果的な利用法を知りたいと思ってワークショップに参加したのである。古風な模擬授業をするというワークショップの内容を事前に知っていれば、おそらく参加しなかっただろう。

しかし、参加したことで得るものは大きかったように思う。教育学、コンピューター科学、心理学、会計学、調理学など、分野がまったく異なる新任教員たちによる授業はとても新鮮で、興味深かった。彼ら彼女らとともに、自分一人では自覚できない弱点や問題点を互いに遠慮なく指摘しあう機会が持てたのは、またとない貴重なものであるように思えた。

立命館大学学生FDスタッフ・立命館大学教育開発推進機構主催

学生FDサミット

～大学を変える、学生が変わる～ (参加報告)

2013年8月24日、25日の二日間に分け、立命館大学学生FDスタッフ・立命館大学教育開発推進機構主催の「学生FDサミット～大学を変える、学生が変わる～」が開催されました。

学生FDサミットは、大学教育の改善について、全国の大学の学生、教員、職員の三者が一体となって取り組む学生主体のイベントです。各大学における取組みの紹介や、意見交換をし、年2回継続して行うことでより良い大学のあり方を考えていくことを目的としています。

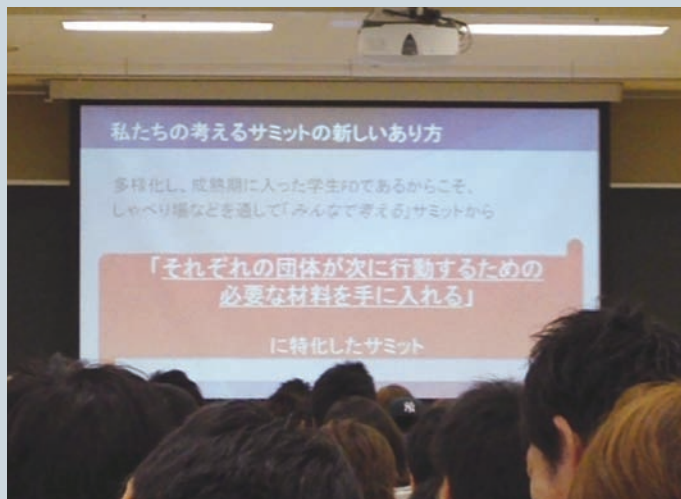
本学からは、中央執行委員会正課局の相良翔子さん（国際文化学部4回生）、桑原のぞみさん（文学部3回生）、9学部合同学生会から三木俊尚さん（社会学部4回生）、木村圭吾さん（法学部4回生）、楠木理奈さん（文学部4回生）の以上5名が参加しました。学生の皆さん、ありがとうございました。

中央執行委員会 正課局 相良翔子さん（国際文化学部4回生）

今年の夏に、立命館大学学生FDスタッフの方々が主催する学生FDサミットに初めて参加させて頂きました。前年度にサミットに参加した先輩からは、「視野を広げる良い機会になる」というアドバイスを頂いていたので、サミット当日を楽しみにしていました。

実際に参加してみて、まず素直にそのイベント規模の大きさに驚きました。そして、そこに集まる全国津々浦々の大学に所属する学生がそれぞれに「学生FD」という一つのワードに向き合い、特色のある独自の活動を行っていることを知り、「学生FD」の持つ解釈の多様性とその可能性を改めて考えさせられました。

このサミットへ参加したことで、龍谷大学学友会九学部合同学生会も今後、本来の活動目的である「学生のより良い正課環境の向上」と龍谷大学に於ける「学生FD」とは何か、について考え、それらを反映した活動を行っていかねばならないという認識を新たに持つことができました。貴重な体験をありがとうございました。



授業で活用できる 教育支援ツール紹介

大学教育開発センターでは、教員と学生のインタラクティブな環境を充実させるために、多様な教育支援ツールを開発することを目的とした、2012年度指定研究プロジェクト「シラバスを基盤とした学修支援システムにおけるインタラクティブな教育支援ツールの開発」を実施しました。

プロジェクトでは、全国の44大学から頂いた事例を参考に、本学で活用できる教育支援ツールとして、シャトルカード及びミニッツペーパーを開発しました。

現在、大学教育開発センターのホームページ上から自由にダウンロードできます（学外アクセスも可）。

【シャトルカード】

期次・期日	授業科目	氏名	所属
第1期			
第2期			
第3期			
第4期			
第5期			
第6期			
第7期			
第8期			
第9期			
第10期			
第11期			
第12期			
第13期			
第14期			
第15期			

期次・期日	授業科目	氏名	所属
第1期			
第2期			
第3期			
第4期			
第5期			
第6期			
第7期			
第8期			
第9期			
第10期			
第11期			
第12期			
第13期			
第14期			
第15期			

シャトルカード及びミニッツペーパーの使い方は自由です。先生方の使いやすいよう、適宜内容の変更ができるよう、word版も用意しております。授業改善にお役立て下さい。

【シャトルカード(1種)】

教員と学生の双方向のコミュニケーションを図ることを目的としたツールです。

毎回の授業に対する「学生からの質問」に対して、次回の授業で「教員からの回答」を付けて返却するなど、授業のポートフォリオとして活用できます。

その他、担当される授業方法に適した方法で、自由にアレンジして活用して下さい。

例)・今日の授業の感想、質問(学生・教員)

・授業に関連した事柄の紹介(学生から報告・教員コメント)

【ミニッツペーパー】

期次・期日	授業科目	氏名	所属
第1期			
第2期			
第3期			
第4期			
第5期			
第6期			
第7期			
第8期			
第9期			
第10期			
第11期			
第12期			
第13期			
第14期			
第15期			

期次・期日	授業科目	氏名	所属
第1期			
第2期			
第3期			
第4期			
第5期			
第6期			
第7期			
第8期			
第9期			
第10期			
第11期			
第12期			
第13期			
第14期			
第15期			

【ミニッツペーパー(5種)】

授業の理解度を測るアンケートや自由記述、小テストも行えるツールです。

アンケート・自由記述用とマーク式小テスト用を、それぞれA4版とB5版を用意しております。出席カードの応用版として自由にアレンジして活用して下さい。

龍谷 GP 賞受賞式の開催

龍谷 GP (Ryukoku Good Practice) では、各学部・研究科等の個性・特色を生かした、優れた教育活動の実践や教育会各、教育改善に向けた意欲的な取組等について、重点的に財政支援を行うことにより、龍谷大学における教育の質保証及び教育の高度化・活性化を目的としています。龍谷 GP 事業として採択された取組のうち、特に優れた成果をあげた取組を「龍谷 GP 賞」として、2013 年 10 月 18 日に学長より表彰されました。

【文学部】

＜取組期間：2011 年 4 月～2013 年 3 月＞

ラーニング・アウトカムを具現する

「卒業論文」の質保証

～継続的なアカデミック・リテラシー教育の再構築～

文学部では、卒業論文を 4 年間の学修の集大成と位置づけ、複数教員による口述試問を実施するなど、学生が卒業時に身につけておくべき能力を厳正に評価してきた。しかし、卒業論文の具体的な到達目標や評価基準が学内で統一されていないことや、各年次の取組がどのように卒業時の質保証へと繋がるのか、4 年間の学修の体系的・系統性が具体的に明示されていないなど、課題も残されていた。

以上の課題に対し、学内統一の評価基準表（ルーブリック）を作成し、更に活用した学生指導を行える基盤を完成した。また、アクティブラーニングコーナーを開設し、大学院生等による個別相談を実施するなどし、初年次教育の充実を図ることができた。



【国際文化学部】＜取組期間 2011 年 4 月～2013 年 3 月＞

グローバル人材育成に繋がる TNG (ツナグ) ネットの確立 ～広がる龍谷ファミリー～

国際文化学部では、今日まで多くの留学生を輩出してきたが、留学と正課科目との繋がりが少なく、結果として留学経験をその後の学修やキャリアに生かすのは個人の努力によるものが多く、その成果を学内外にアピールする機会が少なかった。

そこで、留学を「留学前教育」「留学中教育」「留学後教育」の 3 つに区分けし、一貫した繋がりのある教育の中で、異文化ギャップの緩和やその後のキャリアデザインに繋げるスキルの修得や、留学中教育において、SNS を活用したアクティブラーニングを可能にした。

FD フォーラム開催のお知らせ

公益財団法人コンソーシアム京都主催で、第 19 回 FD フォーラムが本学にて開催されますので、ぜひご参加下さい。
(本年度実施予定の龍谷大学 FD フォーラムはコンソーシアム京都主催の FD フォーラムと合同開催といたします。)

テーマ「社会を生き抜く力を育てるために」

開催日程 2014 年 2 月 22 日 (土) 13:00～17:10 シンポジウム (12:00～受付開始)
17:30～19:00 情報交換会
2014 年 2 月 23 日 (日) 10:00～15:30 分科会・ポスターセッション (9:00～受付開始)

会場 龍谷大学 深草キャンパス

参加申込 ＜一般申込期間＞2014 年 1 月 8 日 (水)～1 月 24 日 (金)
＜大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学 先行申込期間＞
2013 年 12 月 18 日 (水)～12 月 26 日 (木)

大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、先行申込期間を設けています。先行申込期間は、優先定員までの受付となります。先行申込期間後も 1 月 24 日 (金) まではお申し込みいただけます。

※開催プログラム、参加申込等詳細は大学コンソーシアム京都「第 19 回 FD フォーラムの開催について」(http://www.consortium.or.jp/contents_detail.php?frmlid=2764) をご参照下さい。

主催：公益財団法人 大学コンソーシアム京都

2013年度FD活動紹介

学部・研究科FD報告会

各学部、研究科においてFD報告会が活発に行われています。これから開催予定のものもあります。随時大学教育開発センター News にてお知らせ致します。全学に公開されている報告会で、興味関心ございましたらお気軽にご参加下さい。

日にち	学部・研究科	テーマ
5月22日	理 工 学 部	理工学部カリキュラム勉強会
5月22日	理 工 学 研 究 科	理工学部カリキュラム勉強会
5月29日	実践真宗学研究科	東北大学大学院文学研究科 実践宗教学寄附講座「臨床宗教師」養成の取り組みの意義と目的
6月26日	経 営 学 研 究 科	経営学部と通じた大学院での情報処理教育
7月 3日	文 学 部	退学者数の抑制を目指して
7月10日	経 営 学 研 究 科	経営学研究科における学位審査論文審査基準等の明示について
10月23日	経 営 学 部	2013 年度プログラム科目実施報告会
10月23日	経 営 学 研 究 科	経営学研究科留学生インターンシップ報告会
11月13日	政 策 学 研 究 科	「地域公共政策士」のフレームワークを生かした大学院教育
11月27日	文 学 研 究 科	文学研究科における学位論文審査および研究指導について
12月 4日	理 工 学 研 究 科	学部・大学院一貫のグローバル教育プログラムの展開
12月18日	短 期 大 学 部	「フィリピンの生活実態と国際福祉コースへの期待」
1月15日	国 際 文 化 学 部	国際文化学部 卒業論文合同発表会
1月15日	短 期 大 学 部	視聴覚教材作成を通して学ぶ保育技術～家族ロールプレイを通して～
1月22日	政 策 学 部	大学間連携協同教育推進事業関連科目及びフィールドワーク系科目の開発

※ FD 報告会は随時追加されます。また、参加には申込が必要となる場合がございます。詳しくは大学教育開発センター News をご覧下さい。

2014 年 2 月 22 日 (土) 13:00 ～ 17:10 (受け付け開始 12:00 ～)

□ シンポジウムⅠ「京都発！地域社会まるごと学習コミュニティ共に育ち、共に学び合う社会を創る」

大谷 芳夫（京都工芸繊維大学 理事・副学長）

堤 大地（第11回京都学生祭典 実行委員会委員長 立命館大学 政策科学部 3 回生）

古瀬ゆかり（京都市総合企画局 市民協働政策推進室 大学政策担当部長）

猪股 志野（文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室長）

コーディネーター：河原 宣子（京都橘大学 看護学部 教授）

□ シンポジウムⅡ「未来を切りひらく学生を育てるには」

山本 繁（NPO 法人 NEWVERY 理事長、日本中退予防研究所 所長、
中央教育審議会 高大接続特別部会臨時委員）

山内 乾史（神戸大学 大学教育推進機構 大学院国際協力研究科 教授）

土山希美枝（龍谷大学 政策学部 准教授）

コーディネーター：長谷川岳史（龍谷大学 大学教育開発センター長 経営学部 教授）

新着図書紹介



大学の真の実力 大公開BOOK

出版年月:2011/09
著者:赤尾文夫
出版社:株式会社 旺文社

2011年4月からの大学の“情報公開義務化”にあわせ、これまで表に出ることのなかった大学情報を収集し掲載しました。情報は、「新・公開データ」「就職実績データ」に分類。大学の新しい魅力を発見するための情報が満載です。



大学のIR Q&A

出版年月:2013/09/20
編者:中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百
発行者:小原芳明
出版社:玉川大学出版部

教育活動や経営活動の改善、外部評価への対応など、大学の重要な意思決定を支援するIRの業務を解説する。データの収集や分析・活用の方法、報告・提案の留意点など、有用な情報の発信に役立つ実践的な知識・技能を紹介。アンケート調査票の作成、効果的なグラフの選択、関連法令、情報源、基礎用語などの資料を掲載する。中井先生には2013年7月25日にシラバスに関する研修会で講演頂きました。



大学教育のアセスメント入門 ー学習効果を評価するための 実践ガイドー

出版年月:2013/01
著者:バーバラ・ウォルフォード
監訳者:山崎めぐみ・安野舞子・関田一彦
出版社:ナカニシヤ出版

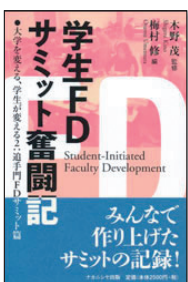
シンプルで効率よく有益なアセスメントとはどのようなものか。ルーブリック作成の新しい例、授業方法の改善・学生の学びを向上させるのに役立つ授業アセスメント技法例などを様々な機関を想定して実践的に解説しています。



思考し表現する学生を育てる ライティング指導のヒント

出版年月:2013年03月
編者:関西地区FD連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター
出版社:ミネルヴァ書房

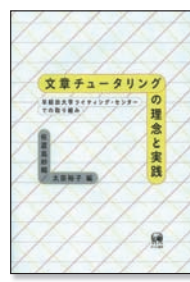
大学生が身につけるべきもっとも重要なスキルの一つであるアカデミック・ライティング。本書では「何を、どう書かせるのか」「それをどう指導するのか(カリキュラム、指導技術、評価法、組織体制など)」についてのヒントを提供しています。紹介された実践例は、多様な学問分野や対象学年をカバーし、個人の取り組みから大学レベルでの組織的取り組みまで多岐にわたり、初年次教育や一般教育・専門教育でのレポート指導、卒論指導などに関わるすべての教員にとって役立つ本です。



学生FDサミット奮闘記

出版年月:2013年03月
著者:木野茂
出版社:ナカニシヤ出版

学生FDに取り組む大学はさらに増え続け、今や全国に広がっています。それに比例して学生FDの取り組み自体も多様化してきました。本書では、その傾向が顕著になった2012年冬の追手門学院大学での第5回学生FDサミットの記録を同大学の梅村修氏に編集しています。



文章チュータリングの 理念と実践

出版年月:2013年03月
編者:佐渡島紗織・太田裕子
出版社:ひつじ書房

現在、大学では、組織的にライティングを教える必要に迫られています。そのような状況の中、独立した機関でライティングを学ぶことの出来る機会を提供することが大学の課題になっています。本書では、この課題にいち早く取り組んできた日本におけるパイオニアである早稲田大学ライティング・センターでの取り組みの実践とその裏付けとなる理念を詳述しています。

図書貸し出しのご案内

大学教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、情報収集に努めています。教職員の方への貸し出し、購入図書のリクエストも受け付けておりますので、是非ご利用下さい。

なお、専任教職員の方につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1. お名前 2. ご所属 3. 教員/職員の別 4. 貸し出し希望の書名 5. 著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jpまでお申し込み下さい。